

【目的】地球規模での様々な環境問題が進行する中で、環境教育の重要性が説かれている。学校における環境教育は、各教科、道徳、特別活動などと相互に連携を図りながら総合的テーマであり、特に生活環境・文化の創造者として、ともに生きる力に重点をおく家庭科教育においては重要なテーマとなっている。そこで本研究では、家庭科教育の理論的根拠となる家政学の独自性を生かした家庭科教育における環境教育について検討を行うことを目的とした。

【方法】まず家庭科における環境教育の独自性を明らかにするために、過去20年間の教育実践について、「家庭科における環境教育思案」に基づいて分類し、社会科・理科等との比較を行った。次に家政学研究誌における環境の取り扱いについて同様の分類を行った。

【結果】分類の結果、社会科では環境問題に気づき理解を深め快適な生活を送るために必要な能力を養うこと、理科では直接自然に触れ生命や自然の大切さを体感させることに重点をおいた環境教育が行われていることがわかった。家政学の独自性としては、「人間と環境の相互作用について」「人的物質的の両面から」研究することがあげられるが、家庭科では家庭生活を見直し環境保全のために望ましい生活のあり方を検討させることに重点がおかれているものの断片的な取り上げ方が多く、今後の検討課題であることが明らかとなった。